



温室効果ガス排出量 検証報告書

2024 年 7 月 26 日

カルビー 株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター
上級経営管理者 丸尾 智雅



1. 検証の対象及び目的

カルビー 株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象^{※1}における温室効果ガス（GHG）排出量情報（再エネ電力消費量情報を含む）（以下「算定情報」という。）算定結果「2023 年度 GHG 算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の 2023 年度（国内事業所は 2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで、海外事業所は 2023 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日まで）（以下「算定対象期間」という。）の以下の算定情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ 1 GHG 排出量

- ・算定対象における天然ガス（LNG を含む）、都市ガス、LP ガス、A 重油、軽油、灯油、ガソリンの使用に伴って直接的に排出される CO₂ 排出量、並びに直接的な CH₄、N₂O 排出量
- ・HFC の漏洩に伴う排出量

2) スコープ 2 GHG 排出量

算定対象における電力、熱の使用に伴って間接的に排出される CO₂ 排出量

3) スコープ 3 GHG 排出量

算定対象の事業活動におけるスコープ 3 カテゴリ 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 12^{※2}において排出される CO₂ 排出量

4) 再エネ電力消費量

スコープ 2 における電力の消費量の内、以下に該当する消費量

- ・再生可能エネルギーにより発電した電力の消費量、または、非化石証書等により実質的に再生可能エネルギーによる発電とみなされた電力の消費量

検証の目的は、事業者の算定情報が算定方法^{※3}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成し算定情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載された算定情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き

当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載の算定情報を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- 算定情報の正確性を確認するためにサンプリングによる根拠となる資料の確認

3. 検証の結論

算定報告書に記載された算定対象期間の算定情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e) /再エネ電力消費量 (MWh)				
	カルビー(株)	ジャパン フリトレー(株)	カルビーポテト (株)	カルビーかいつか スイートポテト(株)
スコープ 1 (t-CO ₂ e)	93,337	1,927	627	1,405
スコープ 2 (t-CO ₂ e)	27,915	0	1,034	2,091
再エネ電力消費量 (MWh)	83,227	5,187	1,795	0
スコープ 3※4 (t-CO ₂ e)	506,481※6	44,679※7	31,910※8	34,283※7
スコープ 3 (t-CO ₂ e) 内訳				
カテゴリ 1	288,314	27,519	13,642	13,010
カテゴリ 2※5	86,012	—	—	—
カテゴリ 3	37,337	925	354	682
カテゴリ 4	74,479	14,579	15,278	13,859
カテゴリ 5	1,803	147	247	244
カテゴリ 6	575	43	33	53
カテゴリ 7	1,725	132	108	233
カテゴリ 8	—	—	248	793
カテゴリ 9	7,783	661	1,281	5,123
カテゴリ 10	—	—	659	—
カテゴリ 12	8,453	674	59	286

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e) /再エネ電力消費量 (MWh)					
	Calbee America, Inc.	CFSS Co. Ltd.	Calbee Four Seas Co., Ltd.	Calbee Group (UK) Ltd	Calbee Tanawat Co., Ltd.
スコープ 1 (t-CO ₂ e)	6,449	965	3,016	6,624	2,532
スコープ 2 (t-CO ₂ e)	3,457	2,060	4,231	260	2,100
再エネ電力消費量 (MWh)	2,769	0	0	3,842	0

NOTE:

※1：算定対象：スコープ 1,2 の算定対象を以下に示す。スコープ 3 は上記表参照

- ・国内事業所：カルビー(株) (北海道工場、帯広工場、新宇都宮工場、清原工場、R&D 工場、下妻工場、各務原工場、湖南工場、京都工場、広島工場、広島西工場、鹿児島工場)、ジャパンフリトレー(株) (古河工場)、カルビーポテト(株) (宇都宮事務所、上川事務所、女満別支所、豊頃支所、更別支所、美瑛支所、剣淵支所、常呂支所、小清水支所、東藻琴支所、智恵文支所、芽室事務所 (馬鈴薯研究所))、カルビーかいつかスイートポテト(株) (本社、第 1 工場、第 2 工場、第 3 工場、第 4 工場、倉庫関係)

・海外事業所：Calbee America, Inc. (Fairfield 工場、Senatobia 工場、Boardman 工場、Madera 工場)、CFSS Co. Ltd.、
Calbee Four Seas Co., Ltd.、Calbee Group (UK) Ltd. (Deeside 工場、Bradford 工場)、Calbee Tanawat Co., Ltd.

※2：スコープ3の各カテゴリの概要

- カテゴリ1（購入した製品・サービス）：購入した主な製品の原料及び容器包装を対象
- カテゴリ2（資本財）：国内事業の設備投資の固定資産を対象
- カテゴリ3（スコープ1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動）：使用した燃料、電力、熱を対象。
- カテゴリ4（輸送、配送（上流））：国内における陸上輸送、海上輸送、鉄道輸送を対象
- カテゴリ5（事業から出る廃棄物）：算定対象から出る産業廃棄物を対象
- カテゴリ6（出張）：従業員の公共交通機関利用による出張を対象
- カテゴリ7（雇用者の通勤）：従業員の所属拠点への通勤を対象
- カテゴリ8（リース資産（上流））：リース倉庫を対象
- カテゴリ9（輸送、配送（下流））：物流拠点から小売店舗までの陸上輸送を対象
- カテゴリ10（販売した製品の加工）：馬鈴薯の調理加工を対象
- カテゴリ12（販売した製品の廃棄）：梱包資材（廃プラスチック、紙くず）を対象

※3：スコープ1,2,3の算定方法

「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (ver.2.6)」、「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (ver.3.4)」、「国立研究開発法人産業技術総合研究所 IDEA Ver3.2」、及び、事業者が作成した各社の「GHG 算定手順書」

※4：スコープ3の値 (t-CO₂e) は各カテゴリの小数点以下も含めた合計値を四捨五入した値

※5：算定対象はカルビー(株)及び連結事業会社

※6：カテゴリ1,6,7,9,12の算定対象はカルビー(株)全体が対象でその他のカテゴリはスコープ1,2の算定対象※1と同じ

※7：カテゴリ3,5の算定対象はスコープ1,2の算定対象※1と同じ。その他のカテゴリは事業者全体が対象

※8：カテゴリ3の算定対象はスコープ1,2の算定対象※1と同じ。その他のカテゴリはカルビーポテト(株)全体が対象